
ボクのたね

千堂 光

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ボクのだね

【Nコード】

N7532C

【作者名】

千堂 光

【あらすじ】

優しい思い。そして、たねが芽をだす。

ユースケが目を覚ましたのは夕方でした。

「あっ！」

ユースケは思わず声を出してしまいました。見覚えのある家具の配置、独特の木のにおい。そこは、おじいちゃんの家でした。おじいちゃんの家に来たのは、小学校の入学式以来でした。

「おっと、起こしちゃったかな？」

ユースケのすぐ近くにおじいちゃんがいました。おじいちゃんと言っても本当のおじいちゃんではありません。ただのご近所さんなのです。でも、お父さんもお母さんも、働きに出ているユースケの身寄りはおじいちゃんしかいないのでした。

「プールでは走っちゃいけないんだぞ」

ユースケは、プールで転び、頭を打ったためおじいちゃんの家に来ていたのでした。

「ごめんなさい」

そうユースケが言うと、おじいちゃんはにっこり笑って、

「ユースケは昔から元気がいいからねえ」

と言いました。ユースケは赤ちゃんの頃からおじいちゃんとよく遊んでいました。でも、最近は会うこともなかったのです。

ユースケが起きてから数十分が経つと、お母さんが迎えに来ました。

「すみません。またお世話になっちゃったみたいで」

「いやいや、私は嬉しいですよ・・・ゴホン、ゴホン」

二人で話していたときも、何度かおじいちゃんはせきこんでいました。

「だいじょうぶ？」

その大きなせきが、ユースケは気になっていました。

「大丈夫だよ。優しいね、ユースケは。そうだ、ユースケにいい

物をあげよう」

おじいちゃんは手招きをして、ユースケを呼び寄せました。ほんの数分でユースケは戻ってきました。満面の笑みで戻ってきたユースケをお母さんは不思議に思い尋ねました。

「なにをもらったの？」

ユースケはにこつと笑って、

「ひみつ！」

とだけ答えました。

次の朝、お母さんはユースケに質問されました。

「ここつてあつたかいかな？」

お母さんは不思議に思いながら答えました。

「そうね・・・暖かいわね」

「わかった！ ありがとうね！」

そう言うと、ユースケは小さな鉢に土をめいっぱい入れ、じょうろで水をやり始めました。

それを見て、お母さんは聞きました。

「なにをしてるの？」

「ひみつだよ」

「教えてくれない？」

「ひみつったらひみつ！」

おじいちゃんが亡くなったのは、それから三カ月後のことでした。突然の出来事でした。

目に涙をためながらも、泣かないように歯をくいしばるユースケにお母さんは言いました。

「強いよね、ユースケは」

優しい言葉にユースケは首を横に振りました。

「どうしたの？」

しゃくりあげながらユースケは答えました。

「おじいちゃんにね・・・あのね、ボクね・・・やくそくしたんだ」

「約束？」

「うん・・・やくそく。あのね・・・まえにね、もらったたねをさかせてみせるって。でもね、さかなくてね・・・ボクやくそくまもれなかった」

「そうなの・・・」

「おじいちゃんにみせてあげたかった・・・」

ついにユースケの目からたまっていた涙がこぼれ落ちました。

「泣かないで。おじいちゃんは元気なユースケが大好きだったのよ。ほら、泣かないで」

ユースケはじつと下を向いたままです。

「・・・なつ・・・」

ぼそつとユースケが言いました。

「なに？」

「なつになつたら・・・あつたかくなつたら・・・はな・・・さくかな？」

さつきよりも、しっかりとした言葉でした。

「うん、咲くわ」

「じゃあ、ボク・・・もうなかないね」

大事に大事に育てられたその種は、二カ月後の寒い寒い冬に芽を出したのです。あたたかい心のもとで。

(後書き)

読んでいただきありがとうございます。

簡単な感想で結構です。どうかご指摘ください。

本当にありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7532c/>

ボクのたね

2010年10月11日01時53分発行